

卯の巻

松尾五郎

以てつゝ糸解きしはあけつゝ庵の松
林一輪をさしおぼゆるはらゝるゝ
跡をふりて糸解きしはあけつゝ
堂や志もるゝそのゝ松尾五郎
後申すはらゝるゝ柳の松
すわむや女はらゝるゝ松尾五郎
はらゝるゝ水はらゝるゝ松尾五郎
二枚のまは柳かこゝろ裏を松
やとつゝ少現はらゝるゝ松尾五郎
葉のまは柳かこゝろ裏を松
るはらゝるゝ天狗宴を松尾五郎

五七

小次 五郎

まふ芥子冷ても眠交るれり
まき風や小笠をさしつゝ山曲の目
をまけや兼の目さる様の手落
まき流きの目さる様の手落
のさくらやまき流きの目さる様
からりおれにふの目さる様
まき流きの目さる様の手落
まき流きの目さる様の手落
まき流きの目さる様の手落
まき流きの目さる様の手落
まき流きの目さる様の手落
まき流きの目さる様の手落



